

第1章

「防災都市計画・地域防災システム」 の基本的考え方

1995年1月17日午前5時46分、淡路島から神戸市にかけての
一帯を震源とする「兵庫県南部地震」が発生、甚大な被害が生じ「阪神・
淡路大震災」と命名された。

我が国は、世界でもまれな災害多発地帯に位置し、有史以来、地震、台
風や豪雨による風水害、崖崩れなどの地盤災害、火山噴火などさまざま
な自然災害をうけ、また伝統的に「木と紙」でつくられた市街地はいく
たの大火で壊滅してきた。先人達はそれらの災害に学んで工夫を図り、
その幾重にも積み重なった上に今日の都市や社会が築かれている。その
工夫の一つが、「防災」や「都市計画」である。

第1章は、第1部の序にあたる。

1-1では第1部で扱う「防災都市計画」「地域防災システム」など、基
本的な概念を整理する。

1-2では、この分野でどのような施策が展開されてきたか、歴史的に振
り返って考察し、今後の課題を整理する。